

85<sup>th</sup>

おかげさまで85周年。  
感謝とともに。未来とともに。

岩手銀行は、平成29年5月2日をもちまして創立85周年を迎えました。この節目にあたり、地域のお客さまなど、当行に関わるすべてのステークホルダーに対しまして85年間の「感謝」とこれからの「決意」をお伝えする「周年ロゴ&キャッチコピー」を策定いたしました。

「85」をかたどったりボンは、「感謝」と「記念」を表しています。また、ピンクはお客さま、緑は岩手銀行として、お客さまと岩手銀行が手を取り合い「人」という文字をかたどることで、一緒に未来に向かう気持ちを表現しています。

キャッチコピーには、85周年に対する感謝と、これからもお客さまと未来をともにする決意を込めています。

岩手銀行は、これまでの感謝の思いを胸に、お客さまと当行がともに輝ける未来を創造していくために日々努力してまいりますので、今後とも一層のご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

平成29年12月発行

株式会社 岩手銀行 総合企画部 広報CSR室

〒020-8688 盛岡市中央通一丁目2番3号

TEL 019-623-1111 (代表)

<https://www.iwatebank.co.jp/>



# いわぎん レポート

岩手銀行中間期ディスクロージャー誌  
(情報編)

2017

The Bank of Iwate, Ltd.  
Report 2017

【事業性理解】  
花巻西支店×有限会社 Q・L・i・g・h・t・s  
平泉支店×株式会社 浄土の郷平泉

ご自由に  
お持ち帰り  
ください



岩手銀行イメージキャラクター のんさん

岩手銀行  
The Bank of Iwate, Ltd.



平素より、岩手銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当行は今年の5月2日をもちまして創立85周年を迎えることができました。これもひとえに地域のみなさまからのご支援、ご愛顧の賜物と心から感謝申し上げます。

この度、当行に対するご理解を一層深めていただくため、「いわぎんレポート」を作成いたしました。本誌では、地域社会の活性化に向けた当行の取組みや現況などをよりわかりやすくご紹介しております。ご高覧のうえ、当行をさらにご理解いただければ幸いに存じます。

さて、足元の地域経済は、緩やかな回復基調を続けておりますが、復興需要に伴う公共事業はピークアウトを迎え、中長期的には、地域が従来から抱えていた少子高齢化・人口減少などの問題が進行し、マーケットが縮小していくことが懸念されています。また、当行を取り巻く環境につきましても、日銀によるマイナス金利政策などの影響により、依然として厳しい状況が続くことが予想されます。

こうした状況に対応するため、現行の中期経営計画では「逆境を克服するため、イノベーションに挑戦し、地域とともに勝ち残る」をテーマとして掲げています。これまでの常識に囚われない新たな発想や方法でイノベーションを起こし、様々な課題に立ち向かっていくことで逆境を乗り越え、これまでの感謝の思いを胸に、これからも地域とともに歩む銀行でありたいと考えております。

今後とも地域のみなさまから信頼され選ばれる銀行となるため、役職員一同全力を尽くしてまいりますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年12月

代表取締役頭取

田口幸雄

## 目次 contents

頭取メッセージ	1
事業性理解①	2
事業性理解②	4
「赤レンガ」通信	6
支店&行員紹介	7
業績トピックス	8

銀行法施行規則等で規定された開示項目は、後日発行いたします「いわぎんレポート2017(資料編)」をご参照ください。

## いわぎん × のん ポスターギャラリー



「ただいま」篇



「登場」篇



「決意表明の唄」篇



「あいたくて」篇

# 事業性理解

①

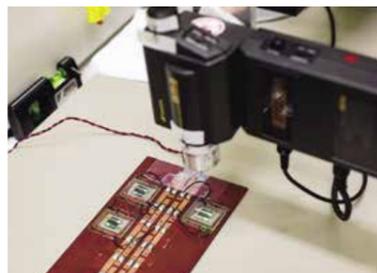
企業のライフステージに寄り添う



# 将来性を秘めた企業を バックアップしています。



高レベルのクリーンルームで行う実験。



有機EL評価に使用する装置。



有機ELにより、画面の色彩がクリアに(右)。

「事業性理解」とは  
企業の現状および課題を認識・分析し、事業の内容や成長可能性を評価したうえで企業価値向上への様々な支援を行うことです。事業性理解を通じて、企業の集積体である地域経済・産業の底上げを図ることで、当期も持続的な収益を確保するというビジネスモデルの実現を目指します。  
※当行ではお取引先との密接な関係をイメージしやすくするため、事業性評価の呼称を「事業性理解」としています。



## 世界を視野に入れて

有限会社Q-Lights  
代表取締役  
ますだ つよし  
柘田 剛さん

いわぎんさんは新しい産業創出のために注力されていますね。有機ELはマーケティング的にも世界を相手にできるほどの可能性を秘めた分野です。小さな会社ですが、今後も信頼性の高い業務を展開して他社と差別化し、高い評価を得ていきたいです。

携帯電話やデジタルカメラなどの表示部に使われる、有機EL。次世代の薄型テレビや照明機器の材料としても期待されています。その有機ELに特化した事業を進めているのが、花巻市の有限会社Q-Lights (キューライツ)です。同社は平成17年(2005)に石川県でベンチャー企業として創業。縁あって平成24年2月、岩手に移転しました。

「当社は研究開発型の会社。有機ELのほか、有機EL技術を応用展開できる有機太陽電池も手がけています。材料メーカーが新規開発をする際、それと同じものを当社のラボで実験し、優位性などの結果をフィードバックします」と代表取締役の柘田剛さん。一部上場の大手企業も含めた、材料メーカーの委託評価サービスが主な業務とのこと。また、有機EL照明において特許を取得するなど、最先端の事業を展開しています。

Q-Lights社とは、花巻に移転後、口座開設を契機にお付き合いが始まりました。その後、当行が参画する

「いわて産学連携推進協議会(リエゾン-I)」の研究開発事業化育成資金の紹介、特許を評価対象とする「知財ビジネス評価書」という仕組みの活用など、支援の幅を徐々に広げてきました。

岩手銀行花巻西支店の相澤英明支店次長は「口座開設に始まり、次第にリレーションを深めてきました。Q-Lights社は、産業の未来を考えても、将来性を感じさせる会社。こうした関係性を築けたことは非常に大きいと思います」と話します。

その言葉を受け、「当社のようなニッチ分野のベンチャーも理解していただき、感謝しています」と柘田社長。材料評価においてナノレベルでの徹底した仕事ができるのも、当行の融資により実現したハイスペックな機器の存在が大きいと笑顔を見せます。そして、「岩手、東北で新しい産業を創出していこうという考えのある銀行のバックアップは、とてもありがたいです」と付け加えました。

時代を牽引する企業を、岩手銀行はこれからも支えていきます。



## 理解を深めて支援

岩手銀行花巻西支店  
支店次長  
あいざわ ひろまさ  
相澤 英明

社長のお話を深く聞くなかで、資金面のみならず、研究そのもののサポートにつながるようと考えました。今後も本部と連携し、理解を深めます。

## 本部の力を発揮して



法人戦略部  
副調査役  
そが かずひろ  
曽我 和宏

当行は、いろいろな視点からお客さまを知り、研究開発資金などを支援する「事業性理解」を進めています。Q-Lights社とは、リエゾン-I 研究開発事業化育成資金事業をきっかけに、コミュニケーションを深める中で、同社の特許を活用して、知財ビジネス評価書に応募しました。Q-Lights社の強みを切り口として有効活用することが、会社を育てるお手伝いにつながると考えるからです。営業店を側面からサポートする本部の機能は、当行がお客さまに提供できる付加価値ですので、営業店と本部が一体となり、お客さまとこれからも一緒に歩んでいきたいと考えています。



特許を持つ、有機EL照明。



徹底したクリーン度管理のもとで行われる作業。

## 事業性理解

②

企業のことをもっと知りたい

町の魅力発信を担う道の駅を全力サポートします。



株式会社浄土の郷平泉  
代表取締役社長

ちば くにひこ  
千葉 邦彦さん

世界遺産などの観光資源以外にも人を呼べるのが、道の駅。とても、やりがいを感じます。町全体の活性化のためにも、ここから町の中へとお客さまを送り込みたいですね。



岩手銀行平泉支店  
支店長

おいかわ しゅうほ  
及川 習歩

今後は、さらにお付き合いを深め、本部と連携しながらバックアップを続けます。めまぐるしく変わる状況を把握しながら、的確な情報をご提供します。

今年4月にオープンした「道の駅平泉」。構想から約25年を経て、念願の開業となりました。出荷者が200人を超える物産館、地元産の農産物を活かしたメニューを揃えるレストランなどからなる館内は、明るく広々とした空間です。

道の駅平泉は、国・県・町で整備を進め、民間の株式会社浄土の郷平泉が指定管理者として運営。千葉邦彦社長は、「いわげんさんには、準備段階から事業計画についてアドバイスを頂戴し、コンサルタントも派遣していただいたりしました」と話します。開業までの3年間、千葉社長をはじめ、岩手銀行平泉支店と法人戦略部事業サポートチームの担当者、役場担当者、コンサルタントが月1回のペースで会議を重ねました。

「世界遺産の町として、文化遺産を中心に地方創生を進めていくことに加えて、道の駅は農産物や特産品の販売、地域情報や町の魅力の発信など、

さまざまな役割を担っていくこととなります。本部と連携し、できる限りのお手伝いをしたいと考えました」と及川習歩支店長。進捗状況を把握しながら、その時々課題の解決に努めました。

道の駅平泉は、開業から5カ月で来場者100万人を突破。千葉社長は、「地域の産業の活性化に貢献したい」との想いから毎日、来場者に中尊寺をはじめとする観光スポットを案内しています。「ゆくゆくは地域の元気を育てる拠点のひとつとなれば」と夢を描きます。その言葉に及川支店長は、「観光客が周遊し、今まで以上に町内に長くとどまっていただけるようになるのでは」と期待を寄せます。

そのためにも、岩手銀行が持つネットワークを活用し、新たな商品や納入業者の紹介などを通じて「魅力の更新」を支えて……。平泉町の元気を倍増するための二人三脚は、これからも続きます。



土日には約8000人を集客する道の駅平泉。町内の観光スポットを案内する大事な拠点でもあります。



## 現場の声も大切に

岩手銀行法人戦略部事業サポートチーム  
営業推進役

ふじの たかし  
藤野 崇

事業計画を見る機会が多いのですが、机上の空論にならないように気をつけています。産直を立ち上げた関係者の方にもご協力いただき、現場の声やニーズを反映するプランのご提案に努めました。当行は、お客さまの現状、経営課題やニーズを適切に認識・分析し、最善策をご提供する「事業性理解」を進めています。道の駅に来場者のニーズも、経営にとって必要な情報も、どんどん変化していくと思いますので、今後とも営業店と連携し、お客さまの経営課題の解決や融資にとどまらない有益な情報の提供などのサポートを続けていきたいと考えています。



# 「赤レンガ」通信

音と空間を味わう、初めての夜イベント。



おと音楽のある東北2017～みんなあの時のまま音楽祭Vol.5～ 永井 龍雲  
今回のコンサートは近畿日本ツーリスト東北が中心となって「東北を応援しよう」と企画しているイベントで、今年で5回目の開催となります。

岩手銀行赤レンガ館で9月、永井龍雲さんのコンサートが行われました。午後6時30分開演というスケジュールで、赤レンガ館初となる夜のイベントでした。集まったファンは永井さんの弾き語りに耳を傾けるとともに、ライティングで表情を変える館内の雰囲気も楽しみました。

デビュー40周年を迎えた永井さんのコンサートは、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の朗読からスタート。最初に演奏した曲は、詩のテーマにつながる内容のものでした。「福岡県出身の私から見ると、賢治には南で生まれ育った人間とは異なる感覚があると思います。土とともに生きる力強さのようなものを感じ、リスペクトしています」。

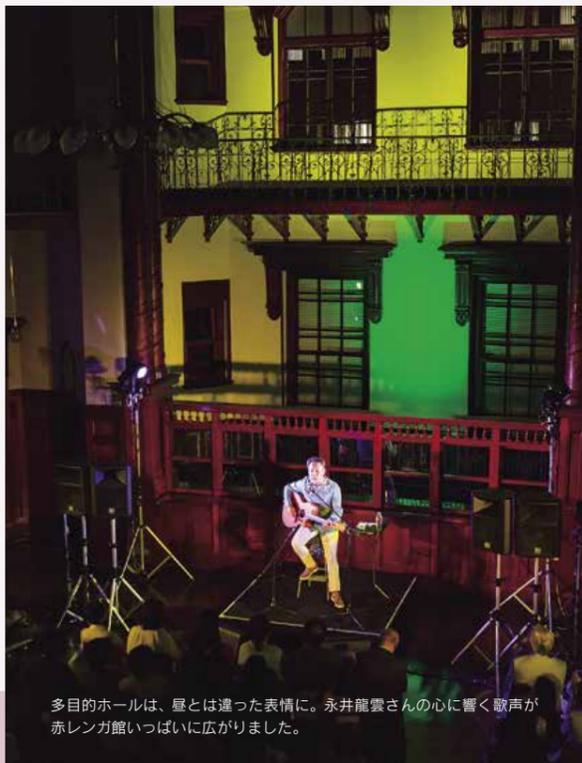
赤レンガ館は懐かしさを覚える建物だと話す永井さん。「とても良い感じに音が広がり、

気持ちよく演奏できました」とのこと。文化財という空間で演奏した自身も、その音を楽しんだ聴衆も、「スペシャルな時間が過ごせた」と笑顔を見せました。

最後に、「演奏の機会をどんどん作ってくださいね。そうすることで赤レンガ館を知ることが増え、保存や活用に関する意識も上がっていくと思いますから」との言葉も。特別なコンサートの余韻をもっと多くの人に、という永井さんの気持ちが伝わってきました。



シンガーソングライター  
ながい りゅううん  
永井 龍雲さん  
1978年にシングル「想い」でデビュー。代表作に「道標ない旅」など。昨年9月発売の「願みて」が日本レコード大賞の企画賞を受賞。



多目的ホールは、昼とは違った表情に。永井龍雲さんの心に響く歌声が赤レンガ館いっぱいに広がりました。



岩泉町の復興のために頑張りたいと話す、川村雪奈行員。  
(中松屋店舗前にて)

今年4月に入行した川村雪奈行員は、岩泉町出身。大好きな地元で人々とふれ合い、地域のためになる仕事がしたいと、この道に進みました。現在は渉外担当として毎日、町内のお客さまを訪問します。「今は、先輩方に教えてもらいながら、仕事を覚えているところです。人と話すことが好きなので、お客さまと直接、関われることにやりがいを感じます」と話します。

地元での就職を考えるようになったのは、東日本大震災がきっかけでした。復興が進んできたと思われた昨年、町は台風10号豪雨で再び被災。「町の変わりように涙が出ました。でも、銀行員となった今、もっと地元で貢献していこうと、強く思うようになりました」と、川村行員は表情を引き締めます。

岩手銀行は、地域社会の発展に貢献することを経営理念に掲げ、災害からの復興のお手伝いにも

力を注いでいます。被災した岩泉乳業株式会社の従業員が総出で泥かきをしていると知り、岩泉支店の行員も週末ごとに、清掃作業に参加。「痛みを分かち合うような気持ちでした」と馬場学支店長代理は話します。

岩泉乳業専務取締役の大澤澄子さんは、「被災後、販売できる商品は化粧水だけでした。そんな時、岩泉支店さんが銀行の全店に連絡して化粧水をたくさん買ってくださいました。多くの支店があるのに、どこに何本送るかという仕分けもやっていただき、本当にありがたかったです」と振り返ります。

再建への道を進む岩泉乳業。「今後も、必要な情報を持ってお訪ねします」という馬場支店長代理の決意に、大澤専務は「岩泉支店さんは心強い存在です」と笑顔。より深まった信頼関係で、地域の明日をサポートします。



岩手銀行岩泉支店  
〒027-0501  
下閉伊郡岩泉町岩泉字太田35  
TEL 0194-22-2381



渉外担当として毎日、町内のお取引先を訪問します。



談笑する大澤専務(右)と馬場支店長代理。活動を通じて、より距離が縮まりました。

## 支店&行員紹介

窓口だけにとどまらない、地域との深い絆を大切に。

〈岩手銀行岩泉支店〉



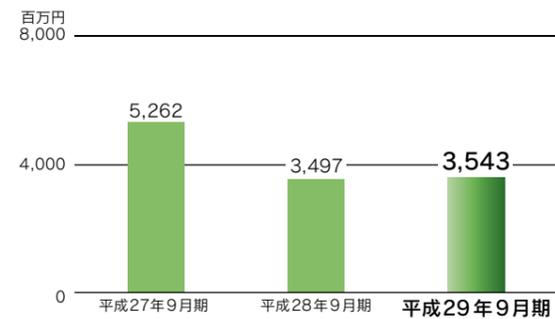
# 業績トピックス

●諸計数は原則として単位未満を切り捨てております。●構成比は100に調整しております。

## 主要な指標の推移

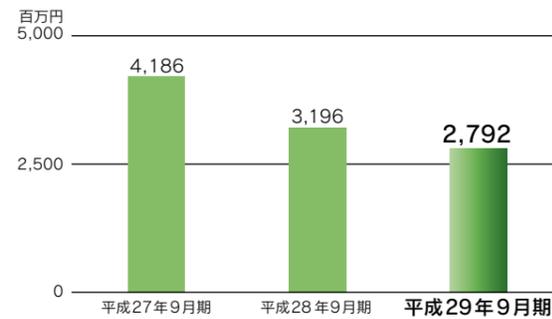
### コア業務純益

コア業務純益は、資金利益や役員取引等利益が減少したものの、デリバティブ関連費用が減少したことなどから、前年同期並みの35億円となりました。



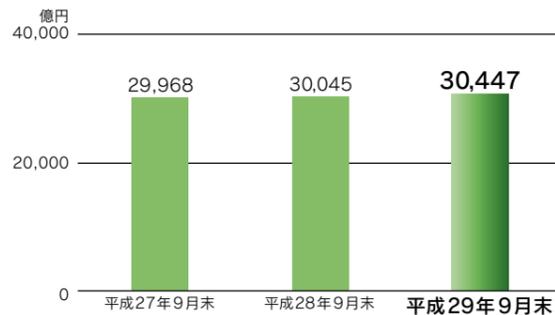
### 中間純利益

中間純利益は、不良債権処理額が減少したことなどにより経常利益は増加したものの、特別利益が減少したことなどにより、前年同期比4億円減益の27億円となりました。



### 預金等残高

公金預金は減少したものの、個人預金および法人預金が増加したことなどから前年同期比402億円増加し、期末残高は3兆447億円となりました。



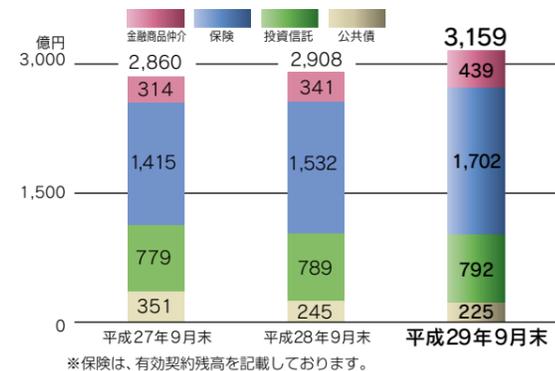
### 貸出金残高

個人向け貸出が増加したものの、法人向け貸出および地方公共団体向け貸出が減少したことなどから、前年同期比357億円減少し、期末残高は1兆6,839億円となりました。



### 預り資産残高

保険および金融商品仲介の増加などにより前年同期比250億円増加し、期末残高は3,159億円となりました。



## 用語のご説明

### 〈自己資本比率〉

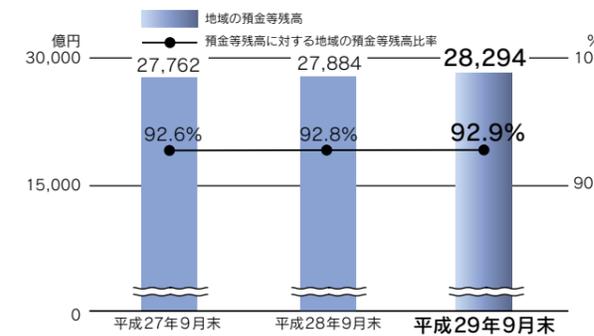
信用の程度に応じてウェイト付けした資産および事務事故、システム障害等で損失が発生する可能性のある金額の合計(リスクアセット)に対する自己資本の割合です。この比率が高いほど不良債権処理等に対する備えが充実していることを示し、当行のような国内支店だけの銀行は4%以上の水準を維持する必要があります。

## 「地域」の定義

当行にとっての「地域」とは、当行の主要な営業基盤である「岩手県」を指しています。なお、県内向け預貸金等各種記載計数につきましては、岩手県内各店舗の合計数値としています。

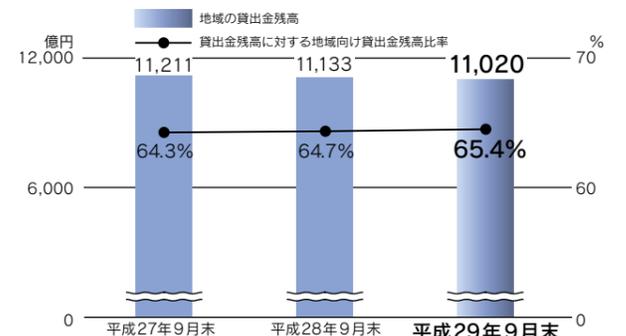
### 地域の預金等残高の推移

平成29年9月末の地域の預金等残高は2兆8,294億円で、預金等全体の9割以上を地域のお客さまからお預かりしています。



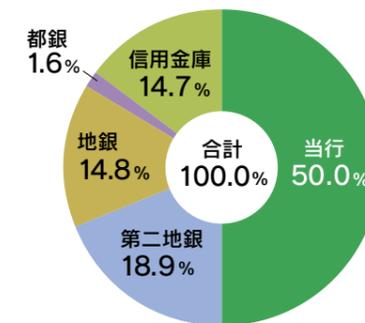
### 地域向け貸出金残高の推移

平成29年9月末の地域向け貸出金残高は1兆1,020億円で、総貸出金に占める割合は65.4%となっています。



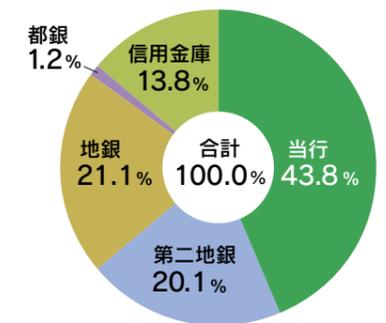
### 県内預金等シェア

平成29年3月中平均残高ベース



### 県内貸出金シェア

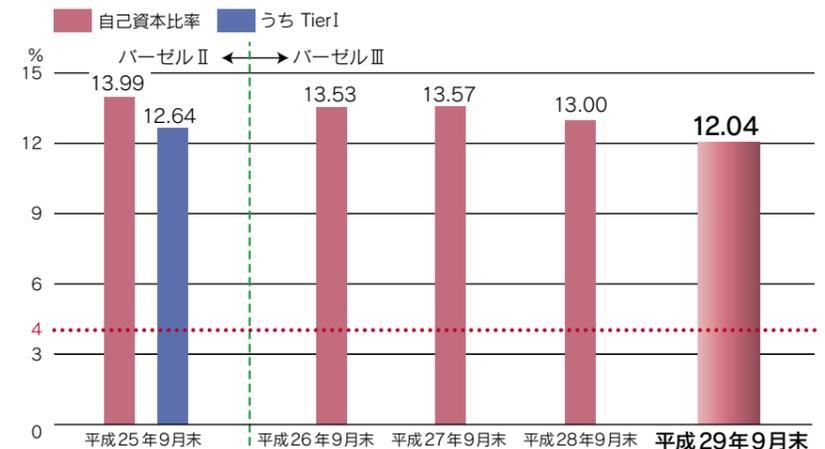
平成29年3月中平均残高ベース



岩手県内における当行の預金等・貸出金シェアは、県内の地銀、第二地銀、都銀、信用金庫のなかでトップとなっています。  
(注)県内シェアは、国内銀行(ゆうちょ銀行を除く)および信用金庫による割合です。

### 自己資本比率

自己資本比率は平成26年3月期より新基準(バーゼルⅢ)で算出しております。平成29年9月末の単体自己資本比率は、12.04%となり、引き続き高い水準を維持しております。



### 格付け

「格付け」とは、企業の債務履行能力を第三者である格付機関が客観的に評価し、その結果を簡単な記号で表したものです。当行は国内外の2社の格付機関から「格付け」を取得していますが、双方から安全性を高く評価されています。

- A (株)格付投資情報センター
- A-(S & Pグローバル・レーティング)